

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3130037号
(U3130037)

(45) 発行日 平成19年3月8日(2007.3.8)

(24) 登録日 平成19年2月14日(2007.2.14)

(51) Int. Cl.

A45C 11/00 (2006.01)

A45C 11/34 (2006.01)

F I

A45C 11/00 U

A45C 11/34 1 O 3

評価書の請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 実願2006-10619 (U2006-10619)

(22) 出願日 平成18年12月27日(2006.12.27)

(73) 実用新案権者 593093423

クツワ株式会社

大阪府大阪市中央区南久宝寺町1丁目3番
9号

(74) 代理人 100089026

弁理士 木村 高明

(72) 考案者 日浦 正仁

大阪府大阪市中央区南久宝寺町1丁目3番
9号 クツワ株式会社内

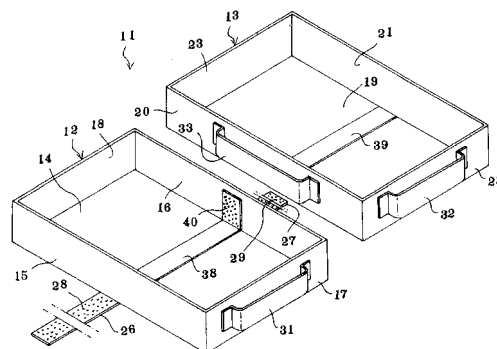
(54) 【考案の名称】 道具箱

(57) 【要約】

【課題】収納物が多くても蓋を閉じやすく、持ち運び時には収納物が乱雑にならず、学校等では収納物を使用しやすく、かつ保管場所に困らない、使い勝手の頗る良好な道具箱を提供する。

【解決手段】学用品等を収納しうる収納部と、上記収納部に対し着脱可能で上記収納部を被覆しうる蓋部とを有し、上記収納部と上記蓋部は共に箱状に形成され、上記収納部に上記蓋部が被せられた状態で、上記収納部と上記蓋部とを固定しうる固定バンドが設けられ、上記固定バンドは面ファスナにより上記蓋部と上記収納部を固定しうるように形成されている。上記収納部と上記蓋部は、互いに横に並置した状態で、学校等に備えられた机の天板の下に形成されている収納空間に収納して引き出しとして使用できる。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

学用品等を収納しうる収納部と、上記収納部に対し着脱可能で上記収納部を被覆しうる蓋部とを有し、

上記収納部と上記蓋部は共に箱状に形成され、

上記収納部に上記蓋部が被せられた状態で、上記収納部と上記蓋部とを固定しうる固定バンドが設けられ、

上記固定バンドは面ファスナにより上記蓋部と上記収納部を固定しうるように形成されていることを特徴とする道具箱。

【請求項 2】

10

上記固定バンドは内面部の略全体に雄の面ファスナが設けられ、上記収納部における長さ方向の略中央部で、幅方向の両側面部における下端部に一端が接続され、

上記蓋部には、長さ方向の略中央部の上面部に、幅方向に沿って、上記雄の面ファスナに対し着脱可能な雌の面ファスナが設けられていることを特徴とする請求項 1 記載の道具箱。

【請求項 3】

上記収納部と上記蓋部には夫々、持ち運ぶ際には掌で握持可能で、学校等では上記機の側部に設けられているフックに吊り下げ可能な持ち手が形成されていることを特徴とする請求項 1 又は 2 のいずれか 1 項に記載された道具箱。

【請求項 4】

20

上記収納部と上記蓋部は、互いに横に並置した状態で、学校等に備えられた机の天板の下に形成されている収納空間に収納して引き出しとして使用しうるサイズに形成されていることを特徴とする請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載された道具箱。

【請求項 5】

上記収納部と上記蓋部の内部には、長さ方向の略中央部に、収納した学用品等を固定しうるゴムバンドが、幅方向に沿って張設されていることを特徴とする請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載された道具箱。

【請求項 6】

上記収納部と上記蓋部は、プラスチックボードの表裏両面を布で被覆することにより形成されていることを特徴とする請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載された道具箱。

30

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は道具箱、特に学童が学校や塾等に携帯する道具箱であって、収納物が多くても蓋を閉じやすく、持ち運び時には収納物が乱雑にならず、学校等では机に収納しやすく、使い勝手の頗る良好な道具箱に関する。

【背景技術】**【0002】**

道具箱は、筆箱、鋏、コンパス、虫眼鏡、方位磁石、ノート等の様々な学用品等を収納して学校や塾等へ携帯するものであるが、従来の道具箱は、収納物が多量の場合に蓋を閉じにくいという不具合があった。

40

【0003】

また、従来の道具箱は、持ち運び時に、収納物の固定が不十分であることから、振動等により道具箱の内部で収納物が揺れ動き、乱雑になりやすいという不具合もあった。

【0004】

また、従来の道具箱は、主にプラスチック製であることから、持ち運び時に落下することにより破損しやすく、耐久性に劣るという不具合もあった。

【0005】

また、従来の道具箱は、学校等で使用する場合は、蓋を開いて収納物を取り出し、机の天板の下に形成されている収納空間に学用品等に移し替えなければならず、煩雑であると

50

いう不具合があった。

また、学用品を取り出した後の道具箱の保管場所がないという不具合もあった。

【 0 0 0 6 】

本出願人は上記の不具合を解消しうる道具箱について調査したが、関連する先行技術文献を見出すことはできなかった。

【 考案の開示 】

【 考案が解決しようとする課題 】

【 0 0 0 7 】

そこで本考案の課題は、収納物が多くても蓋を閉じやすく、持ち運び時には収納物が乱雑にならず、学校等では収納物を使用しやすく、かつ保管場所に困らない、使い勝手の頗る良好な道具箱を提供することにある。 10

【 課題を解決するための手段 】

【 0 0 0 8 】

上記課題を解決するために、本考案に係る道具箱は、学用品等を収納しうる収納部と、上記収納部に対し着脱可能で上記収納部を被覆しうる蓋部とを有し、上記収納部と上記蓋部は共に箱状に形成され、上記収納部に上記蓋部が被せられた状態で、上記収納部と上記蓋部とを固定しうる固定バンドが設けられ、上記固定バンドは面ファスナにより上記蓋部と上記収納部を固定しうるように形成されていることを特徴とする。

【 0 0 0 9 】

すなわち、本考案に係る上記道具箱は、上記収納部に学用品等を収納して、上記収納部に上記蓋部を被せてから、上記蓋部と上記収納部とを上記固定バンドで固定した状態で携帯することができる。また、上記固定バンドは上記面ファスナにより簡便に固定することができる。 20

【 0 0 1 0 】

また、本考案に係る上記道具箱にあっては、上記固定バンドは内面部の略全体に雄の面ファスナが設けられ、上記収納部における長さ方向の略中央部で、幅方向の両側面部における下端部に一端が接続され、上記蓋部には、長さ方向の略中央部の上面部に、幅方向に沿って、上記雄の面ファスナに対し着脱可能な雌の面ファスナが設けられていることを特徴とする。

【 0 0 1 1 】

すなわち、本考案に係る上記道具箱は、上記収納部の上記固定バンドに設けられた上記雄の面ファスナを、上記蓋部に設けられた上記雌の面ファスナに係止させることにより、上記蓋部を上記収納部に対し固定することができる。その場合、上記固定バンドの上記雄の面ファスナは内面部全体に亘って設けられているので、上記雄の面ファスナと上記雌の面ファスナの係止位置は限定されず、自由な位置で係止することができる。 30

【 0 0 1 2 】

また、本考案に係る上記道具箱にあっては、上記収納部と上記蓋部には夫々、持ち運ぶ際には掌で握持可能で、学校等では上記機の側部に設けられているフックに吊り下げ可能な持ち手が形成されていることを特徴とする。

【 0 0 1 3 】

すなわち、本考案に係る上記道具箱は、上記持ち手を掌で握持して持ち運ぶことができるが、学校等では、機の脇に上記持ち手を利用して吊り下げることにより保管することができる。 40

【 0 0 1 4 】

また、本考案に係る上記道具箱にあっては、上記収納部と上記蓋部は、互いに横に並置した状態で、学校等に備えられた機の天板の下に形成されている収納空間に収納して引き出しとして使用しうるサイズに形成されていることを特徴とする。

【 0 0 1 5 】

すなわち、本考案に係る上記道具箱は、学校等では、上記蓋部を上記収納部から取り外し、機の天板の下に形成されている収納空間に、上記蓋部と上記収納部を横に並べた配置 50

で収納することができる。また、上記蓋部と上記収納部は上記持ち手を引き手として使用することにより上記収納空間から引き出すことができるので、上記蓋部と上記収納部は機の引き出しとして利用できるという有用性がある。

【0016】

また、本考案に係る上記道具箱にあっては、上記収納部と上記蓋部の内部には、長さ方向の略中央部に、収納した学用品等を固定しうるゴムバンドが、幅方向に沿って張設されていることを特徴とする。

【0017】

すなわち、本考案に係る上記道具箱は、上記収納部や上記蓋部の内部に収納した学用品等を上記ゴムバンドで挟み止めすることができる。したがって、持ち運ぶ際の振動等で学用品等が揺れ動く心配がない。

【0018】

また、本考案に係る上記道具箱にあっては、上記収納部と上記蓋部は、プラスチックボードの表裏両面を布で被覆することにより形成されていることを特徴とする。

【0019】

すなわち、本考案に係る上記道具箱は、表面が布で覆われているため風合いが良好であり、又、上記プラスチックボードが芯板となって布の内側に挟まれているので強度が向上する。

【考案の効果】

【0020】

請求項1記載の本考案に係る道具箱は、学用品等を収納しうる収納部と、上記収納部に対し着脱可能で上記収納部を被覆しうる蓋部とを有し、上記収納部と上記蓋部は共に箱状に形成され、上記収納部に上記蓋部が被せられた状態で、上記収納部と上記蓋部とを固定しうる固定バンドが設けられ、上記固定バンドは面ファスナにより上記蓋部と上記収納部を固定しうるように形成されていることから、箱状に形成された上記収納部に学用品等を多量に積み込んでも、上記蓋部を被せてから、上記固定バンドで上記蓋部を上記収納部に固定することができるので、学童でも容易に蓋部を閉じることができる。

また、上記固定バンドは上記面ファスナにより固定し、固定位置が多少ずれても固定可能であることから、収納物の量が増えて上記蓋部が多少盛り上がっても支障なく固定することができる。

【0021】

請求項2記載の本考案に係る道具箱は、上記固定バンドは内面部の略全体に雄の面ファスナが設けられ、上記収納部における長さ方向の略中央部で、幅方向の両側面部における下端部に一端が接続され、上記蓋部には、長さ方向の略中央部の上面部に、幅方向に沿って、上記雄の面ファスナに対し着脱可能な雌の面ファスナが設けられていることから、上記収納部と上記蓋部の長さ方向の略中央部を、上記固定バンド1本で容易に固定することができる。

また、上記固定バンドは内面部の略全体に雄の面ファスナが設けられているので、雌の面ファスナにどこでも固定することができるという融通性があり、固定作業が容易である。

【0022】

請求項3記載の本考案に係る道具箱は、上記収納部と上記蓋部には夫々、持ち運ぶ際には掌で握持可能で、学校等では機の側部に設けられているフックに吊り下げ可能な持ち手が形成されていることから、学校等で使用しない場合は、上記フックに上記持ち手を掛けて吊るすことができ、保管場所に困らない。

【0023】

請求項4記載の本考案に係る道具箱は、上記収納部と上記蓋部は、互いに横に並置した状態で、学校等に備えられた機の天板の下に形成されている収納空間に収納して引き出しとして使用しうるサイズに形成されていることから、上記収納部と上記蓋部に学用品等を収納したままの状態、機の天板の下に形成されている収納空間に引き出しの如く収める

10

20

30

40

50

ことができるので、上記道具箱から収納物を取り出して上記収納空間に移し替える煩雑がなく、使い勝手が良好である。

【 0 0 2 4 】

請求項 5 記載の本考案に係る道具箱は、上記収納部と上記蓋部の内部には、長さ方向の略中央部に、収納した学用品等を固定しうるゴムバンドが、幅方向に沿って張設されていることから、上記収納部と上記蓋部の内部に収納した学用品等を上記ゴムバンドで固定できるので、持ち運ぶ際に、収納物が振動して乱雑になるのを防止することができる。

【 0 0 2 5 】

請求項 6 記載の本考案に係る道具箱は、上記収納部と上記蓋部は、プラスチックボードの表裏両面を布で被覆することにより形成されていることから、表面は布であるため触感が良好であり、かつ内部にプラスチックボードが芯として挟まれ、強度が増しているので落下しても破損する心配がない。

10

【考案を実施するための最良の形態】

【 0 0 2 6 】

以下、図面を用いて本考案の実施の形態について説明する。

本実施の形態に係る道具箱 1 1 は、図 1 に示すように、学用品等を収納しうる収納部 1 2 と、上記収納部 1 2 に対し着脱可能で上記収納部 1 2 を被覆しうる蓋部 1 3 とを有し、上記収納部 1 2 と上記蓋部 1 3 は共に箱状に形成され、図 2 に示すように、上記収納部 1 2 に上記蓋部 1 3 が被せられた状態で、上記収納部 1 2 と上記蓋部 1 3 とを固定しうる固定バンド 2 6 , 2 7 が設けられ、上記固定バンド 2 6 , 2 7 は面ファスナ 2 8 , 2 9 , 3 0 により上記蓋部 1 3 と上記収納部 1 2 を固定しうるように形成されている。

20

また、図 1 に示すように、上記固定バンド 2 6 , 2 7 は内面部の略全体に雄の面ファスナ 2 8 , 2 9 が設けられ、上記収納部 1 2 における長さ方向の略中央部で、幅方向の両側面部 1 5 , 1 6 における下端部に一端が接続され、上記蓋部 1 3 には、図 2 に示すように、長さ方向の略中央部の上面部 1 9 に、幅方向に沿って、上記雄の面ファスナ 2 8 , 2 9 に対し着脱可能な雌の面ファスナ 3 0 が設けられている。

また、図 1 に示すように、上記収納部 1 2 と上記蓋部 1 3 には夫々、持ち運ぶ際には掌で握持可能で、図 5 に示すように、学校等では机 3 4 の側部に設けられているフック 3 5 に吊り下げ可能な持ち手 3 2 , 3 3 が形成されている。

また、上記収納部 1 2 と上記蓋部 1 3 は、図 4 に示すように、互いに横に並置した状態で、学校等に備えられた机 3 4 の天板 3 6 の下に形成されている収納空間 3 7 に収納して引き出しとして使用しうるサイズに形成されている。

30

また、図 1 に示すように、上記収納部 1 2 と上記蓋部 1 3 の内部には、長さ方向の略中央部に、収納した学用品等を固定しうるゴムバンド 3 8 , 3 9 が、幅方向に沿って張設されている。

また、上記収納部 1 2 と上記蓋部 1 3 は、図 3 に示すように、プラスチックボード 2 4 の表裏両面を布 2 5 で被覆することにより形成されている。

【実施例 1】

【 0 0 2 7 】

図は実施例に係る道具箱 1 1 を示したものである。

40

本実施例に係る上記道具箱 1 1 は、図 1 に示すように、収納部 1 2 と、蓋部 1 3 とにより構成されている。

【 0 0 2 8 】

図 1 に示すように、上記収納部 1 2 と上記蓋部 1 3 はともに箱状に形成されている。

すなわち、上記収納部 1 2 は、方形の底面部 1 4 と、上記底面部 1 4 の周辺部に、上記底面部 1 4 に対し直交するように連設された側面部 1 5 , 1 6 , 1 7 , 1 8 とにより構成され、

また、上記蓋部 1 3 は、方形の上面部 1 9 と、上記上面部 1 9 の周辺部に、上記上面部 1 9 に対し直交するように連設された側面部 2 0 , 2 1 , 2 2 , 2 3 とにより構成されている。

50

【 0 0 2 9 】

図 2 に示すように、上記蓋部 1 3 は上記収納部 1 2 の上方から上記収納部 1 2 に被せることができるように、上記収納部 1 2 より僅かに大きく形成されている。

すなわち、図 1 に示すように、上記蓋部 1 3 と上記収納部 1 2 は互いに分離して形成され、互いに着脱しうるように形成されている。

【 0 0 3 0 】

図 1 に示すように、上記収納部 1 2 は学用品等を収納しうるように形成され、上記蓋部 1 3 も、上記収納部 1 2 から取り外して上下反転させた状態にすれば、その内部に学用品等を収納しうるように形成されている。

【 0 0 3 1 】

上記収納部 1 2 における上記底面部 1 4 と上記側面部 1 5 , 1 6 , 1 7 , 1 8 、及び上記蓋部 1 3 における上記上面部 1 9 と上記側面部 2 0 , 2 1 , 2 2 , 2 3 は、いずれも、図 3 に示すように、芯部材であるプラスチックボード 2 4 の表裏両面を布 2 5 で被覆された構造を有している。

【 0 0 3 2 】

図 2 に示すように、上記収納部 1 2 に上記蓋部 1 3 が被せられた状態では、上記収納部 1 2 と上記蓋部 1 3 は固定可能に形成されている。

上記固定手段としては固定バンド 2 6 , 2 7 が用いられている。

上記固定バンド 2 6 , 2 7 は面ファスナ 2 8 , 2 9 , 3 0 により上記蓋部 1 3 と上記収納部 1 2 を固定しうるように形成されている。

【 0 0 3 3 】

図 1 に示すように、上記固定バンド 2 6 , 2 7 は内面部の略全体に雄の面ファスナ 2 8 , 2 9 が設けられている。上記固定バンド 2 6 , 2 7 は、上記収納部 1 2 における長さ方向の略中央部で、幅方向の両側面部 1 5 , 1 6 における下端部に一端が接続され、他端部は自由端となっている。

【 0 0 3 4 】

図 2 に示すように、上記蓋部 1 3 には、長さ方向の略中央部の上面部 1 9 に、幅方向に沿って、上記雄の面ファスナ 2 8 , 2 9 に対し着脱可能な雌の面ファスナ 3 0 が帯状に設けられている。

【 0 0 3 5 】

上記収納部 1 2 と上記蓋部 1 3 には夫々、持ち運ぶ際には掌で握持可能で、学校等では、図 5 に示すように、机 3 4 の側部に設けられているフック 3 5 に吊り下げ可能な持ち手 3 2 , 3 3 が形成されている。

すなわち、図 1 に示すように、上記収納部 1 2 には、一方の短尺側面部 1 7 に持ち手 3 1 が設けられ、上記蓋部 1 3 には一方の長尺側面部 2 0 と一方の短尺側面部 2 2 に夫々持ち手 3 3 , 3 2 が設けられている。

【 0 0 3 6 】

図 4 に示すように、上記収納部 1 2 と上記蓋部 1 3 は、互いに分離して、開口部を上に向けて横に並置した状態で、学校等に備えられた机 3 4 の天板 3 6 の下に形成されている収納空間 3 7 に収納することができるサイズに形成されている。

すなわち、上記収納部 1 2 と上記蓋部 1 3 は上記収納空間 3 7 に収納されて、上記机 3 4 の引き出しとして使用可能に形成されている。

なお、上記収納部 1 2 と、上記蓋部 1 3 は、上記持ち手 3 1 , 3 2 を引き出しの引き手として使用しうるように、上記持ち手 3 1 , 3 2 が形成された上記側面部 1 7 , 2 2 が手前に位置するように上記収納空間 3 7 に収納される。

【 0 0 3 7 】

図 1 に示すように、上記収納部 1 2 と上記蓋部 1 3 の内部には、長さ方向の略中央部に、収納した学用品等を固定しうるゴムバンド 3 8 , 3 9 が幅方向に沿って張設されている。

【 0 0 3 8 】

また、図 1 に示すように、上記収納部 12 の側面部 15, 16 における長さ方向の中央部には、上記固定バンド 26, 27 に設けた雄の面ファスナ 28, 29 と係止しうる雌の面ファスナ 40 が設けられている。上記面ファスナ 40 は、上記収納部 12 を開いた状態のときに、上記固定バンド 26, 27 を固定しうるように設けられたものである。

【0039】

以下に、上記実施例の作用について説明する。

学童等は上記道具箱 11 に学用品等を収納して学校等へ携帯することができる。

上記道具箱 11 に学用品等を収納する場合は、まず、上記収納部 12 から上記蓋部 13 を取り外して分離する。

次に、上記収納部 12 に学用品等を収納するが、その場合、上記ゴムバンド 38 の下側に学用品等を挟んで固定する。 10

なお、上記蓋部 13 の内部にも学用品等を収納して上記ゴムバンド 39 で固定することも可能である。その場合、上記蓋部 13 は上記収納部 12 に後で被せる必要があるので、上記蓋部 13 の内側に固定する学用品等は薄くて嵩張らないものが好ましい。

【0040】

次に、上記収納部 12 に上記蓋部 13 を被せて、上記収納部 12 に収納された学用品等を覆い隠すことができる。

その後、上記収納部 12 に取り付けられた上記固定バンド 26, 27 を上記蓋部 13 の上面部 19 の上に回し、上記固定バンド 26, 27 に設けられた上記雄の面ファスナ 28, 29 を、上記蓋部 13 の上面部 19 に設けられた上記雌の面ファスナ 30 に係止させることができる。これにより、上記収納部 12 に対し上記蓋部 13 が外れないように固定される。 20

この場合、上記固定バンド 26, 27 に設けられた上記雄の面ファスナ 28, 29 は長さ方向の全体に亘って設けられ、上記雌の面ファスナ 30 も帯状に形成されていることから、雌雄の面ファスナ 28, 29, 30 の固定位置は、面ファスナ 28, 29, 30 の長さ方向に沿って自由に変化させることができる。

【0041】

学童等は上記蓋部 13 に設けられた上記持ち手 32, 33 の一方を握持することにより学校等へ持ち運ぶことができる。その場合、上記道具箱 11 に収納されている学用品等は上記ゴムバンド 38, 39 により固定されているので、歩く時の振動等により揺れ動きにくく、乱雑になるのを防止することができる。 30

【0042】

また、学校等では、机 34 の側部に設けられているフック 35 に上記持ち手 32, 33 を利用して吊り下げることができるので、保管場所に困ることがない。

【0043】

また、上記収納部 12 と上記蓋部 13 を分離し、互いに横に並置した状態で、学校等に備えられた机 34 の天板 36 の下に形成されている収納空間 37 に収納できるので、上記収納部 12 と上記蓋部 13 を机 34 の引き出しとして使用することができ、便利である。

【産業上の利用可能性】

【0044】

本考案は、学用品等を収納して学校等に携帯する場合に使用する道具箱に適用可能である。 40

【図面の簡単な説明】

【0045】

【図 1】本考案の実施例に係る道具箱を示すもので、収納部と蓋部を分離した状態の斜視図である。

【図 2】本考案の実施例に係る道具箱を示すもので、収納部に蓋部を被せて固定した状態の斜視図である。

【図 3】本考案の実施例に係る道具箱の一部断面図である。

【図 4】本考案の実施例に係る道具箱を机の収納空間へ引き出しの如く収納した状態を示 50

す斜視図である。

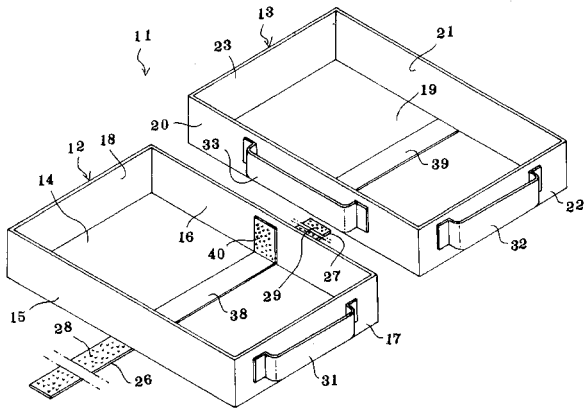
【図 5】本考案の実施例に係る道具箱を机のフックに吊り下げた状態を示す斜視図である。

【符号の説明】

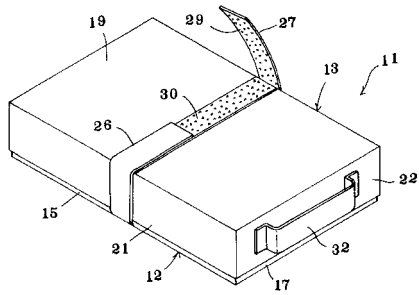
【 0 0 4 6 】

1 1	道具箱	
1 2	収納部	
1 3	蓋部	
1 4	底面部	
1 5	側面部	10
1 6	側面部	
1 7	側面部	
1 8	側面部	
1 9	上面部	
2 0	側面部	
2 1	側面部	
2 2	側面部	
2 3	側面部	
2 4	プラスチックボード	
2 5	布	20
2 6	固定バンド	
2 7	固定バンド	
2 8	面ファスナ	
2 9	面ファスナ	
3 0	面ファスナ	
3 1	持ち手	
3 2	持ち手	
3 3	持ち手	
3 4	机	
3 5	フック	30
3 6	天板	
3 7	収納空間	
3 8	ゴムバンド	
3 9	ゴムバンド	
4 0	面ファスナ	

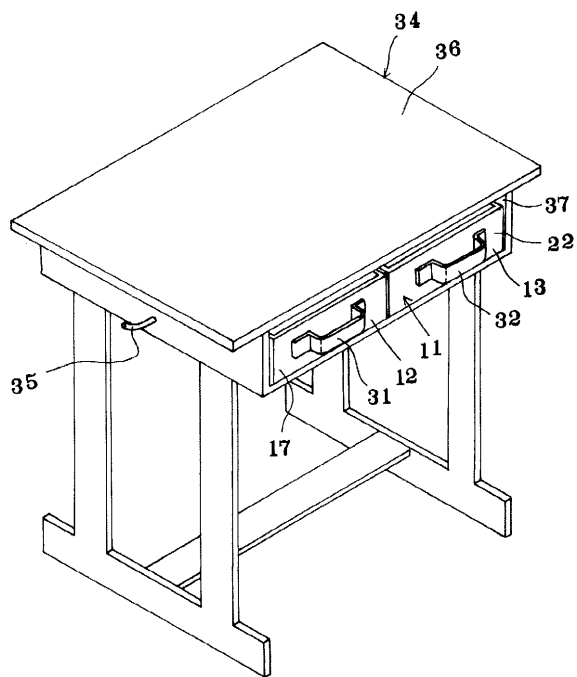
【図 1】



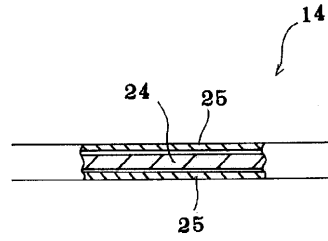
【図 2】



【図 4】



【図 3】



【図 5】

